

P2	ヒストリーインタビュー
P3	年頭あいさつ
P4	青年部・女性部だより
P6	「福島美味しいもの食のフェア」 開催報告
P8	元気印!!ズームアップ
P10	Information 商工会だより
P12	掲示板

ニュースクリップ News Clip

あ きら ひと しょう こう じん
商きない工らす人びと ぶくしま商・工・人

古殿町の豊国酒造合資会社さんから酒造りのこだわりについてお伺いしました。

ヒストリーインタビュー

高付加価値地酒へ特化したマーケティング・ブランド戦略を展開

2015.1.1
Vol.367

全国新酒鑑評会 八年連続金賞受賞

喜び、感謝、自信、誇り、・・・
「極める」の思いを胸にお届けします、今年の東豊国。
さあ、存分にご堪能ください。



豊国酒造合資会社

福島県石川郡古殿町竹貫114

当社は、福島県石川郡に位置する自然豊かな山間の小さな町、古殿町にて、江戸時代の天保年間に創業し二百年以上にわたって酒造りを行ってきました。年間出荷数量は約十五万リットルで、そのうちの大部分が、石川郡及び旧東白川郡を中心とした、いわゆる『地元』で消費されてきました。

後継者(賢征)九代目蔵元(の)の入社をきっかけに、四年ほど前からは、これまでの伝統的な酒造りに加え、新たに高付加価値日本酒(限定流通、特約店制度)となる商品「歩口」(いぶき)への特化を軸としたブランド戦略およびマーケティング戦略を展開中です。これまで取引のなかった、会津、郡山、福島地方、さらには県外への出荷を拡大しています。

酒造りにおいて どのようなこだわりを 持っていますか

当社では、創業以来受け継がれてきた主軸ブランドで、伝統と格式を重視し日本酒愛飲家向けの『東豊国』。そして、「伝統・格式+モダン」のコンセプトのもと、日本酒入門者向けに新たに創られた『歩口』という二つの銘柄が軸になっています。

これらの酒造りの根底にあるのは先代から常に言われてきた『地元の自然の中で生まれ、そこに集う人の手で育ち、そしてそこに暮らす人々に愛

される。』という『地酒』として当たり前のごとを当たり前にするという思いです。

地元の農家さんが手塩にかけて育ててくれたお米を原料に、地元から湧き出る阿武隈山系の伏流水でお酒を仕込んでいます。全国を見渡せば、もつと酒造りに向いた原料があるかもしれないませんが、それは『酒造り』に適した原料であつて、当社が考える『地酒』では、地の水、米が最高の『地酒』を産み出すと考えています。

また、機械による効率化・大量生産を追い求めるのではなく、非効率でも、人の手による酒造りを今でも行っています。自然と対峙し、受け入れ、活かしながらの酒造りになりますので、機械で行ってしまうと、その日の気温・湿度、米の出来によるわずかな違いをどうしても見逃してしまいがちです。一つ一つの作業に人の五感が加わることで、わずかな違いでもすぐに対処でき、機械には出せない『地酒の味』を産み出すことが出来ます。

そして、自然の恩恵の上に私たちが造り手の思いが加えられ出荷される日本酒が、そこに暮らす人々の日々の暮らし、喜怒哀楽に寄り添う事で、『地酒』が完成すると考えています。

『自然の恩恵を活かす』人の手で醸す『暮らしに寄り添う』この二つのこだわりを持ち、酒造りに取り組んできたからこそ、これまで約二百年、この地の『地酒』であつたのだと思います。

今後の展開とビジョンについて お聞かせ下さい

この二つのこだわりを、より強くしていきたいです。

まず、地酒に大切な原料となる酒米の高品质化を成し遂げる。農家さんとの連携を密なものにし、さらに勉強会等の場を設けることで、質・量ともにこれまでを上回るお米を産み出していきたいです。

また、酒造りに並行して、『人づくり』もしていきたいと考えています。これまでは、季節雇用による杜氏制度に支えられて、酒造りは行われてきました。今後の雇用を考えると、季節雇用でなく、年間を通じて雇用できる体制を築いていかなければ、地域の有能な若者の就業につながりません。そのためにも、地域企業としての更なる魅力向上を目指すのももちろん、酒造り従事者に対する育成制度を充実させ、これからの『地酒造り』の担い手を自分たちで育てていく体制を築いていかなければなりません。

そして、『暮らしに寄り添う地酒』であるためには、『地域の誇り』であり続けなければならぬと考えています。そのために、これまでの全国新酒鑑評八年連続金賞受賞(継続中)という誇りに加えて、『歩口』を軸に希少性と知名度・高品質といった高付加価値地酒へ特化したマーケティング・ブランド戦略を展開していくことで、情報に

敏感な、これからを担う世代へアプローチし、地元若者のファンづくりを強化していきたいと考えています。

これらのこだわりをより強化することで、これまで培ってきた伝統・格式の継承と、現代嗜好への融合を両立させ、地酒としての更なるブランド化を目指します。

商工会との係りについて お聞かせ下さい

このような事業に取り組んでいることを商工会の職員に話したところ、中小企業ものづくり補助金の活用を勧められました。申請書の作成支援を受け、今年六月には無事採択を受けるとともに小規模事業者持続化補助金を活用し新たな販路開拓のための商談会等への参加にも取り組んでおります。現在は、福島県経営革新計画の策定に取り組んでおり、今後も様々な面で商工会から支援を頂き、地域活性化の一翼を担えればと考えています。



企業概要

代表社員 矢内定紀(8代目)
従業員数 9名
年間出荷数量 約15万リットル
主な受賞歴 南部杜氏自醸酒清酒鑑評会:
連続1位(2010, 2012年)
全国新酒鑑評:
8年連続金賞受賞(2007年~2014年)

「ふくしまの商工業の再生を目指して」

福島県商工会連合会 会長 轡田 倉治



平成二十七年の新春を迎え、謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

昨年来、我が国経済は、株価の回復等の明るい兆しが見えるものの、円安による原材料やエネルギー価格の上昇等により、地方の中小・小規模企業にとっては、景気回復の実感を得ているとはいえない厳しい状況が続いております。本県においては、今なお事業を継続・再開できない商工業者も多く残っております。また、原子力発電所の汚染水や粉じん飛散問題等が風評被害を増幅させており、多くの業種の中小・小規模事業者の経営に多大な影響を与え続け、極めて厳しい状況が続いております。

こうした中、昨年は、被災事業者の事業再生・再建や原子力損害賠償に関わる支援を図るため、会員事業者が抱えている課題を再認識し、真に頼りになる商工会として「ふくしまの商工業の再生を目指して」をスローガンに掲げ、「商工会復興ビジョン基本理念」のもと、地域商工業の復興と地域コミュニティの再生に取り組んでまいりました。特に風評被害払拭のための事業として、県内の二か所で「食のフェア」を開催するとともに、大阪では「食のキャラバン」を開催するなど、安全・安心の情報発信を強化してまいりました。また、四月には、県にご協力をいただきながら、東京日本橋に

アンテナショップをオープンさせました。

六月には、我々が長年要望してきた「小規模企業振興基本法」が成立し、地域とともに歩み、地域を支えてきた小規模企業に光があてられた確かな道が拓かれようとしております。この法律の制定により、小規模企業の役割・位置付けが明確化され、小規模企業の持続的発展と成長のための施策が強力に展開されるよう期待しているところであります。

新しい年は、引き続き震災復興や風評被害払拭に取り組むとともに、組織存立の原点に立ち返り商工会活動の強化を図る必要があると考えております。このため、小規模企業が有する技術や技能を掘り起こすための徹底した巡回訪問はもとより、会員の皆様のニーズに応えるため、職員一人ひとりが支援能力の向上に努め、地域の支援機関の中核として、中小・小規模事業者への支援を強化してまいります。また、広域連携体制の更なる強化による、効果的な企業支援に努め、県内産業に活力を取り戻すことができるよう、各般の事業を展開してまいります。

八十九商工会と県連が一丸となって、地域に再び輝きを取り戻す「原動力」となるよう、引き続き、会員皆様方の二層のご協力をご支援をお願い申し上げます。

結びに、商工会員の皆様並びに関係各位にとりまして今年が明るい一年となりますよう、心よりご祈念申し上げます。

「復興の新たなステージへ」

福島県知事 内堀 雅雄



謹んで新年のごあいさつを申し上げます。県政を担うこととなって二半月が経

過いたしました。この間、「現場主義」を基本姿勢に据え、積極的に現場に足を運んでまいりました。今後とも、市町村や地域の声をしっかりと受け止め、県政に反映してまいります。

震災から間もなく四年を迎えます。今なお十二万人もの県民の皆さんが避難生活を続け、原発事故の完全収束に向けた課題も多く、厳しい状況が続いております。

その一方、インフラの復旧・整備が進み、福島県の未来を支える研究・開発拠点の開所や着工、企業の経済活動や観光地のにぎわいの回復など、各地で復興の光が少しずつ見え始めてきました。

今年、復興の序章から新たなステージへと進めていく年であります。復興が着実に実感できるよう、スピード感を持って取り組んでまいります。

中でも、避難地域の再生は最優先の課題であります。環境回復や生活再建・安定への取り組みはもちろん、農林水産業や商工業などの再生をしつ

り進めるとともに、廃炉に集結する世界レベルの先端技術を種に革新的な新産業を生み出す「イノベーション・コースト構想」の具体化にも取り組んでまいります。

また、国、市町村と一体となって避難地域の将来像の検討を進め、復興施策全体の基盤となる「復興計画」の見直しにも着手いたします。

さらに、福島の子育てを担う子どもたちの政策にも力を入れてまいります。子どもの持つ潜在力を大きく開花させられるよう、教育環境を充実させるとともに、地域全体で子どもを育む社会づくりを進め、日本一安心して子育てのできる県づくりを目指してまいります。

このほかにも、風評・風化への対策、避難者支援、社会生活基盤の整備、地方創生への対応など課題は山積しておりますが、こうしたさまざまな課題に進取の気概を持って果敢に取り組んでまいりたいと考えております。

「任んで良かった・来て良かったと思える豊かな「ふくしま」を築くため、「ふくしまから、チャレンジはじめよう。」の下、全力で県政を運営してまいりますので、今後とも一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。新年のごあいさつといたします。

商工会うまいもんNo.1決定戦の開催

福島県商工会青年部連合会による商工会うまいもんNo.1決定戦が9月27日(土)、9月28日(日)いわき市小名浜港「アクアマリンパーク」にて開催されました。激闘の末、四倉町商工会青年部の「ソース焼きカツ丼」が、見事優勝を飾りました。

商工会うまいもんNo.1結果

- 優勝 四倉町商工会青年部 『ソース焼きカツ丼』
- 準優勝 大信商工会青年部 『白河高原清流豚 とんぼう』
- 第3位 楢葉町商工会 『豚丼専門店「豚壺」(株押田) 特製秘伝のたれ豚丼』



四倉町商工会青年部



大信商工会青年部



楢葉町商工会

青年部主張発表全国大会(新潟大会)の開催



復興現状報告の様子

平成26年11月12日、新潟県新潟市「朱鷺メッセ」において、第16回商工会青年部全国大会が開催されました。本県からの参加者は昨年よりも多く、160名となりました。

今大会の中で、佐々木県青連会長と河治県青連副会長が登壇し、東日本大震災復興現状報告を行いました。福島県が頑張っている姿や現状を全国から集まった約3,000人の青年部員を前に、スピーチされました。



青年部全国大会福島県集合写真

～女性の魅力で輝く未来を!～

第16回商工会女性部全国大会IN福岡(女性部長研修会) 二瓶恵美子(東北・北海道ブロック代表一滝根町)さん 優秀賞受賞!

商工会女性部全国大会が、平成26年10月22日に福岡県福岡市「ヒルトン福岡シーホーク」において約3,000名(福島県参加60名)が参加し盛大に開催されました。

大会は、情熱的で魅惑的なフラメンコで幕が開け、式典では、全国商工会女性部連合会の末武栄子会長が「人口減少や産業衰退で厳しい環境にあるが、女性部が魅力ある事業を行い、地域や商工会を盛り上げよう」と挨拶をしました。

今回は、東北・北海道ブロック代表として滝根町商工会女性部 部長 二瓶恵美子さんが「女性部活動と地域振興・まちづくり」～探そう!地域の宝～をテーマに発表しました。

東日本大震災と原発事故に伴い、観光客が激減し町全体に活気がなくなっていた状況を女性部パワーでなんとかしたいという思いから、事業所廃業によって食べられなくなってしまった地元で昔から親しまれているカレーコロッケを復活させることで、町の元気を取り戻し、そして風評被害払拭のため取り組む内容について発表し、自分の地域にある“宝”を見つけ出す目を持ち、行動することが活性化に繋がることと発表しました。



全国商工会女性部連合会 会長 末武栄子



東北・北海道ブロック代表 二瓶恵美子さん(滝根町)



大会会場で参加者全員で記念撮影

FOOD FAIR

福島の美味しいもの食のフェア(白河)
SHIRAKAWA 2014 9/13(Sat)-14(Sun)

9月13日～14日に西郷村「イオン白河西郷店」にて開催いたしました。屋外での開催でありましたが、比較的天気にも恵まれたたくさんのお客様にご来場いただきました。出展者の皆さまにも大変ご協力いただきました。ありがとうございました。



「もの食のフェア」 報告

原子力発電所事故に伴う風評被害
品にかかる安心・安全の普及拡大
に、白河と福島県の2会場において
開催いたしました。

日本でいちばん安全に
使っているのは、
産の食品です。

FOOD BRAND
and Fukushima Chamber of Commerce and Industry Recommends



イベントスペース
を
理解されてい
拡大に努めるこ
催されるディス



FOODFAIR

福島の美味しいもの食のフェア(福島)
FUKUSHIMA 2014 10/11(Sat)-12(Sun)

10月11日～12日の2日間、福島市「JRA福島競馬場」において40事業所の出展規模により開催し、幅広い年齢層のお客様に来場頂いたことで効果的に風評被害払拭をアピールすることができました。



「福島の美味しいもの食のフェア」開催

東日本大震災に起因する福島県産加工食品の風評被害対策として、本県産加工食品のブランド再生を目的とした「福島県産加工食品の風評被害対策として、本県産加工食品のブランド再生を目的とした福島県産加工食品の風評被害対策として、本県産加工食品のブランド再生を目的とした福島県産加工食品のブランド再生を目的とした福島県産加工食品のブランド再生を目的とした」



福島美味セレクトフェア in 大阪

福島県の現状について、ファミリー層が集うショッピングモールのイベントスペースを利用し、県産品のPRや販売、観光PRイベント等を実施し、福島県産品を知らない方々へ情報を伝えることによって風評被害の払拭につなげ販路拡大と、福島県に対する支援への感謝の気持ちを伝えるとともに来年開業を記念したキャンペーンに向けた旅行需要と話題性の喚起を目的に開催し、浜通り、中通り、会津の三地方から食のフェア等に出品いただいた36事業所の63品を販売することが出来、多くのお客様に福島県の現状と食の魅力をお伝えすることが出来ました。



主催 福島県商工会連合会／県内89商工会
日時 平成26年11月8日(土)・9日(日) 午前10時～午後6時
場所 大阪府泉南市「イオンモールりんくう泉南セントラルコート」

ズムアツツ。

元気印

県内4地域の商工会から、地域でがんばっている会員企業をご紹介します。
みなさんの経営のヒントになるお話もたくさんいただきました。
是非、ご感想を福島県商工会連合会までEメールにてお寄せ下さい。(f-wing@do-fukushima.or.jp)

県北

飯坂町商工会

「本当のおいしいを
一人でも多くの人へ」



株式会社 安齋果樹園
安齋 忠幸氏

〒960-0201
福島市飯坂町字小川115
TEL 024-529-7277
FAX 024-529-7767
http://anzai-kajuen.com/



■フルーツ王国ふくしまの味

福島市飯坂町で15代続く安齋果樹園は、消費者が果樹を所有し農家に栽培を委託する「くだもの木オーナー制度」の導入など、消費者と生産者の直接対話を大事にする経営に取り組んでいる事業所です。夫の忠作さん、長男の忠幸さんとともに果樹農業を営む安齋さと子さんは、女性農業者の地位向上活動に尽力していることが評価され、平成23年にアジア太平洋地域の農業に貢献した個人を国連食糧農業機関が表彰する「模範農業者賞」を日本人として初受賞しています。

農園で栽培するりんご、桃、さくらんぼ等は化学肥料や除草剤を一切使用せず、くだもの本来のおいしさを味わえることから「くだもの木オーナー」の人数は年々増加しています。その他にも「子ども農山漁村交流プロジェクト」のモデル地域の選定を受け、小中学校の農業体験の受け入れや果物の加工販売にも熱心に取り組んでおり、りんごを使った焼肉のタレなど人気商品を次々に生み出しています。

農業体験等で訪れる顧客の受け入れ環境を整備したいとの相談から持続化補助金を提案し、採択を受けました。今後も原発事故による風評被害を払拭できるよう、様々な角度から支援していきたいと考えています。

■商工会の支援に感謝

「和式トイレは嫌だ!!」。農業体験に来る子ども達が口々に言う言葉に「何とかしなければいけない」という気持ちの反面、原発事故以後の風評被害で売上減少が続く「何もできない」という状況が続いていました。商工会から持続化補助金の説明を受けた時は、「この機会を逃したら何もできない!!」との思いからチャレンジすることにしました。

申請にあたっては、職員の方から補助金申請の進め方や事業計画の策定等について丁寧なアドバイスをいただき、無事に採択を受けることができました。今回の補助金活用により顧客満足につながったものと考えています。

今後も商工会には、様々な分野できめ細かい支援をお願いしたいと思っています。



県中・県南

矢吹町商工会

「ふくしまの自然の恵みが
感じられる商品作りを
目指して」



やまさ味噌こうじ店
佐藤 忠義氏

〒969-0221
西白河郡矢吹町中町401
TEL 0248-42-3359
営業時間/9:00~18:00
定休日/毎週火曜日

■良い糀が良い味噌をつくる



やまさ味噌こうじ店は、昭和25年に矢吹町で創業し、2代目の佐藤忠義さんは、後継者の大義さんと共に営業しております。先代の「良い糀が良い味噌をつくる」という教えのもと、味噌醸造の技法を継承しつつ、常に商品の調査・研究・改良を行い、顧客のニーズの変化を敏感に捉え、60年以上も事業を継続して参りました。

その功績が認められ、当店の味噌「こうじの恵み」は、平成23年には「福島県ブランド」に認証され、町内のみならず県外にも多くのお客様を持っております。

また、平成24年には、更なる販路拡大の為、町内に販売専門の2号店をオープンし、創業以来、福島の自然の恵みが感じられる商品作りをコンセプトに、味噌に加え糀関連商品の製造販売にも力を入れてきました。

この度の小規模事業者持続化補助金の採択を受け、新たな取り組みとして、これまで販売のみを行ってきた2号店の一部を改装し、糀を気軽に楽しんで

もらえるメニューを試行錯誤しながら、商品開発を進めているところです。今後についても、事業者に寄り添いながら多方面から支援を継続していきたいと思っております。



■福島の食と商工会

福島県商工会連合会主催の『食のフェア』出店にあたり、商工会にはさまざまな角度からサポートして頂きました。これまでに数回出店しておりますが、毎回分野の異なる専門家によるサポート、職員による販売支援のおかげで、出店するたびに販売方法や商品陳列、試食方法などに新たな気づきがあります。またそれらを実店舗にもフィードバックすることができ、貴重な経験を得る素晴らしい機会でした。これからも商工会と共に福島の食を全国に発信していく決意です。

会津

あいづ商工会

「どぶろく特区第1号!」



茶莢木庵(くみのきあん)

代表 谷 邦弘氏

〒969-3451

会津若松市河東町八田字茶莢木原183

TEL 0242-75-3611

営業日/毎週金・土・日曜日

(上記営業日以外は要予約。お電話下さい)

■そば店・農家民宿からどぶろく製造免許取得

代表である谷邦弘さんは会社勤務の傍ら、かねてから米生産農家として農業を営んでおり、平成21年に脱サラ、従前から趣味としていたそば打ちを活かして自家生産したそば粉を使用し、国道49号線八田地区茶莢木原に現在の店舗を構え、翌年農家民宿としても事業をスタートさせ、奥さんと共に営業しております。

開業以来、地粉100%の十割手打ち蕎麦を中心に、訪れる地元・観光客から好評を得ております。

そのような中、平成24年11月当会津若松市において認定を受けた「どぶろく特区」に合わせ、自家生産米を使用したどぶろくの製造免許を取得し、特区第1号のどぶろく商品化に向け取り組みました。商品化やその後の販促活動の為、市当局において、商工会や地元関係者で構成する「どぶろく特区河東地域振興協議会」を立ち上げ、幾度となく試作を繰り返し2種類のどぶろく商品化に至りました。1つは酒米を使用した「よがんべ」。芳醇な香りと風味が特徴。もう1つはコシヒカリを使用した「強じよっぱり」。辛口ながら力強いしつかりとした味わいが特徴です。それらを地区内の飲食・小売店数店にて提供販売を開始し、また商工会が関わる各種イベントにおいても商品PRを積極的に実施し、認知度向上や販路開拓の支援をさせていただいております。

谷さんは色々な発想を持つアイデアマンです。すでにどぶろくを使用した2次製品の開発も視野に入れ試作も進めております。今後も当地域の新たな地場産品「どぶろく」のPR等販促支援に取り組みながら、その先駆けである茶莢木庵さんの更なる発展に期待しております。

■新たな販促ツールの確保

どぶろくの商品化に伴い、そのPRや販促活動の為に新たなポスターやのぼり旗などが不可欠であると考えておりました。そんな折、商工会から持続化補助金の案内をいただき、これを活用して新たな販促ツールを作成しようと思いましたが、補助金の申請にあたっては、経営計画書の作成など困難を極めました。商工会の全面的サポートのおかげで、無事採択を受けることができました。現在は新しく作成したチラシやのぼり旗をフルに活用し、どぶろくの販売も順調に伸びております。これからは商工会にはさまざまな面で支援をいただきながら、どぶろくの振興を通じ、当地域の活性化や事業の発展に努めてまいります。



浜通り

川内村商工会

「川内村の復興のシンボル」



株式会社あぶくま川内

代表取締役 猪狩 幸夫氏

〒979-1201

双葉郡川内村大字上川内字小山平501-1

TEL 0240-39-0103(かわうちの湯)

0240-38-3511(いわなの郷)

0240-38-3181(ビジネスホテルかわうち)

定休日/火曜日(かわうちの湯、いわなの郷)

■心と体の癒しの場所



指定管理者として3施設の運営管理を行っております。原発事故時には、かわうちの湯、いわなの郷を近隣住民の避難所として開放し救援活動を行いました。その後の川内村全村避難指示により5ヶ月間完全休業となりました。

代表取締役(事故当時のマネージャー)の猪狩幸夫さんは、全村避難指示後も村の警備を続けていた双葉地方広域消防隊員を応援するため、避難未解除であるにもかかわらず、従業員と力を合せかわうちの湯の営業を再開させました。

この営業再開は川内村復興の起点となりました。村の早期復興を目指す一部の村民が帰還を始め、多くの支援者も来村するようになりました。

現在、かわうちの湯は、復旧改修工事を経て全館営業しております。いわなの郷も営業再開し、村内外のお客様に釣り堀、コテージを利用頂いております。

(株)あぶくま川内

は、温泉入浴施設「かわうちの湯」、観光施設「いわなの郷」、宿泊施設「ビジネスホテルかわうち」の指定

■頼りになる相談相手

震災1年後には、川内村復興支援のため全国から多くの方が来村するようになり、村内の宿泊施設が不足するようになりました。

そこで、中小企業基盤整備機構の仮施設整備事業を活用し、川内村がビジネスホテルを建設、弊社が管理運営を受託することになりました。

当時、ビジネスホテル運営ノウハウは、全くと言っていいほど無かったため、早速商工会へ相談に向かい、ホテル運営に関する専門家の手配を依頼しました。

商工会の口利きで大手ホテルチェーンの現役マネージャーを紹介され、複数回にわたって接客方法や施設管理、予約システムの構築など運営全般について指導を受けました。おかげ様でホテル開業時から大きなトラブルもなく、多くのお客様からお褒めの言葉をいただいております。

商工会は、今回のような悩み事を相談すると、すぐに解決に向けて対応してくれるので大変感謝しております。



Information

商工会だより

風評被害払拭と 地域振興を目指して



本宮市商工会長の
小沼貞彦です。

本宮市は、平成十九年一月に旧本宮町と旧白沢村が合併

し、県内十三番目の市として誕生しました。面積は約八十八平方キロメートル、人口は約三万五〇〇人と県内の市では面積が最も小さく、また人口も最も少ない市ですが、福島県のほぼ中央に位置し、東北自動車道・本宮インターチェンジを有していること。また磐越自動車道と交差する郡山ジャンクションに最も近接していることから、交通の要衝として重要な位置を確保しており、この立地条件を生かして付近に造成されている本宮市工業等

団地をはじめ、市内八か所の工業団地には県内外から多くの企業が進出し、活力ある産業の形成が図られています。

市内中心部では、第三セクターの街づくり会社や市商店街協同組合などにより、新たな賑わい拠点づくりやイベントの実施による商店街の

本宮市商工会

皆さん自らの発想によるまちづくりが進められています。東日本大震災の発生、東京電力福島第一原子力発電所事故の影響により、市内の人口交流が途絶え、街中から急速に活気が失われてしまいました。

このため、原発風評払拭と併せ、街地に活気を取り戻すことを目的として数々のイベントを実施しており、そのひとつとして一昨年からJR本宮駅前広場でのイルミネーション点灯式に合せ、本宮市、大玉村、松川町、あたたら商工会青年部の広域連携事業として「もとみやテント村」を実施しています。



それぞれの青年部が、地域の食材を生かして開発した食品のPRを兼ね、テントによる屋台村で地域特産品として販売するもので、昨年は十一月十四日、十五日の二日間、市のまちづくり会社や商店街協同組合の飲食コーナーのブースも設けて実施しました。

当会では、このほかにも様々なイベントを行っておりますが、当然のことながら、その目的が地域住民の交流につながる。商店街や商工会関係者など、自らの発想による企画運営であることが大事なことと思っております。このことを念頭に置いて、今後もイベントを通じた市街地の活性化に取り組んで行きたいと考えています。



Information

商工会だより

「小さいながらもキラリと光る 持続可能なむらづくりを目指して」

湯川村商工会



湯川村商工会長の渡部満雄です。

湯川村は会津のへそ、盆地の中心に位置しており、東に秀峰会津磐梯山を仰ぎ、西には歌手春日八郎の故郷会津坂下町、南は白虎隊、鶴ヶ城の城下町会津若松市、北はラーメンと蔵のまち喜多方市にそれぞれ隣接している交通の要所です。

人口は約三千六百人、世帯数約九百世帯、面積十六・三六平方キロメートルと福島県内で一番小さい自治体であり、ちよつとよそ見をしているとあつという間に通り返してしまつてほつです。

また、標高約百八十メートルで山がない村であることも特徴で、コシヒカリをはじめとした湯川村の米は単収が十アールあたり六百キログラムを超え、かつ食味が特Aと県内有数の米どころでもあります。

また、村の歴史文化のシンボルの存在である「勝常寺」は、大同二年（八百七年）伝教大師の論敵として有名な法相宗の碩学徳一菩薩開祖による東北を代表する古刹であり、国宝指定の木造薬師如来、両脇侍像、国重要文化財指定の元講堂と

仏像九躯があり、平安初期の仏像が一箇所にこれだけ多く保存されているのは我が国でも珍しいことだと思っています。

当商工会は地区内商工業者数七十四件、会員数六十五名と小さい商工会ですが、この度制定された小さな企業に光をあてる「小規模企業振興基本法」、また地方創生の施策が講じられようとしているなか、まさに当商工会のような小さいものが光り輝く時代が到来しようとしています。平成二十四年度に策定した当商工会復興ビジョン「道の駅開設利活用による地域経済システムの構築」の基本方針の具現化を目指し、農工商連携による特産品として、湯川産米を原料とした「おらが酒 瑠璃光」の開発による六次化産業の創出、そして地域の人の、情報のプラットフォームの役割を担う「道の駅あいつ湯川・会津坂下」が平成二十六年十月当村にオープンしました。



米どころ湯川村のうまい酒

瑠璃光

この「瑠璃光」は日本酒造りの中でもやまやまの個性が溢れる酒です。飲み方は、冷酒でも温酒でもお好みの酒ですが、冷酒も温酒も増し、女性にも飲みの酒をおすすめします。

この道の駅は全国でも唯一、二つの町村（湯川村、会津坂下町）が共同で整備し、運営会社を立ち上げた珍しい道の駅です。

当駅は、観光や仕事で訪れるお客様はもちろんですが、特に地域の方々にこそご利用いただきたいと願い、「美味しさをキーワードに店づくりを行っています」。



レストラン客席

季節の素材や、味噌や麴などの特産物を活用して仕上げた大好評のシエラートコーナー、また、地域のお米の美味しさ、伝統の味、B級グルメなども味わえる軽食コーナー、そしてハーバイキングスタイルで地域の新鮮でおいしい野菜を味わえる農家レストランなど、美味しい魅力が満載です。

さらに、農産物直売所は新鮮で美味しい野菜や果物、こだわりの加工品であふれ、有機野菜や会津農林高等学校の生徒さんが作った農産物コーナーなどは非常に人気があります。

物産コーナーでは、味噌や日本酒などの地域の逸品が豊富に並び、日常の食卓用からお土産、ギフトとしてのご利用まで幅広い品揃えが特徴です。



農産物マーケット



物産エリア

当商工会は、会津のへそに立地する当駅を最大限に活用し、地域情報の発信と地域資源を活用した交流人口の拡大、そして地域経済システムの構築に向けての施策事業を実施して参りたいと考えています。

福島県アンテナショップ

『日本橋ふくしま館～MIDETTE～』 福島美味コーナー商品募集

本会では、首都圏における本県産加工食品の情報発信と原子力災害に伴う風評被害の払しょく等を目的としてアンテナショップ『日本橋ふくしま館』をオープンし、同ショップ内商工会ブース『福島美味コーナー』の展示販売商品を募集しております。

- ◆出品条件 福島県産の加工食品で放射性物質検査を受検し、また、製造物責任保険に加入していること等
- ◆募集期間 随時受け付けております
- ◆利用期間 原則3ヶ月間
- ◆その他 詳細については最寄りの商工会までお問合せください

消費税の転嫁対策は、お済みですか？

事業者の皆さま、消費税に関する経営のご相談はお近くの商工会にご相談ください。

お問い合わせ

消費税転嫁対策窓口相談等事業
福島県商工会連合会

〒960-8053
福島県福島市三河南町1番20号 コラッセふくしま9階
TEL:024(525)3411 FAX:024(525)3413
<http://www.f.do-fukushima.or.jp/>



商工会の会員福祉共済 トータル「がん」補償



お問い合わせは、ご加入の商工会へ